



社長の鶴丸でございます。

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2014 年 3 月期 第 1 四半期の決算概要についてご説明いたします。

本日のご説明内容
I. 2014年3月期 第1四半期 決算概要
II. 2014年3月期 第2四半期 業績予想
© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.
2
RENEsas

まず私から、第 1 四半期の決算概要および第 2 四半期の業績予想についてご説明いたします。

エグゼクティブサマリ	
I. 2014年3月期 第1四半期 決算概要	
■ 半導体売上高は、自動車向けや中小型液晶ドライバの売上増、為替レートの改善などにより、前四半期比9.0%増の1,896億円	
■ 営業損益は、前四半期に引き続き黒字を確保し、これまで実行してきた構造改革の効果が表れ始めているものの、黒字基調の定着にはもう一段の構造改革が不可欠	
II. 2014年3月期 第2四半期 業績予想	
■ 半導体売上高は、季節性要因もあり、前四半期比5.7%増の2,004億円を見込む	
■ 営業損益は、たな卸資産の縮減に伴う生産回収減や上期末の費用増などにより、前四半期比56億円減となる42億円の黒字を見込む	
■ 四半期純損益は、早期退職優遇制度や事業・生産構造改革の実施に関わる特別損失を計上することなどにより、360億円の赤字となる見込み	
© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 3 RENESAS	

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

1つ目が、第1四半期の決算概要です。

第1四半期の半導体売上高は、自動車向けや中小型液晶ドライバの売上増、為替レートの改善などにより、前四半期比で9.0%増の1,896億円となりました。

営業損益は、前四半期に引き続き黒字を確保し、これまで実行してきた構造改革の効果が表れ始めているものの、黒字基調の定着にはもう一段の構造改革が不可欠であると考えております。

2つ目が、第2四半期の業績予想です。

半導体売上高は、通常、第2四半期が売上のピークとなる季節性要因もあり、前四半期比で、5.7%増の2,004億円を見込んでおります。

営業損益は、たな卸資産の縮減に伴う生産回収減や、上期末の費用増などにより、前四半期比で56億円の減少となる42億円の黒字を見込んでおります。

四半期純損益は、早期退職優遇制度や事業・生産構造改革の実施に関わる特別損失を計上することなどにより、360億円の赤字を見込んでおります。



それでは、第1四半期の決算概要について詳しくご説明いたします。

2014年3月期 第1四半期 決算概要

- 半導体売上高は、自動車向けや中小型液晶ドライバの売上増、為替レートの改善などにより、前四半期比9.0%増の1,896億円
- 営業損益は、売上増に伴う利益増などにより、前四半期比18億円増の98億円

(単位:億円)	2013年3月期	
	第1四半期	第4四半期
売上高	1,866	1,854
半導体売上高	1,662	1,739
営業損益	△176	80
経常損益	△176	87
四半期純損益	△208	△59
1US\$=	81円	89円
1ユーロ=	106円	118円

2014年3月期		
第1四半期	前年同季比 [%]	前四半期比 [%]
1,991	+124 (+6.7%)	+137 (+7.4%)
1,896	+214 (+12.7%)	+157 (+9.0%)
98	+274	+18
85	+261	△1
△40	+168	+19
98円	17円 円安	8円 円安
127円	21円 円安	8円 円安

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

5

RENESAS

5 ページが、第 1 四半期の業績サマリです。

先ほども申し上げましたとおり、半導体売上高は、自動車向けや中小型液晶ドライバの売上増、為替レートの改善などにより、前四半期比で 9.0%増の 1,896 億円となりました。

営業損益は、売上増に伴う利益増などにより、前四半期比で 18 億円増の 98 億円となりました。



6 ページは、四半期ごとの業績推移です。

第 1 四半期の半導体売上高は、前四半期比で 9.0%増、前年同期比では 12.7%増となりました。

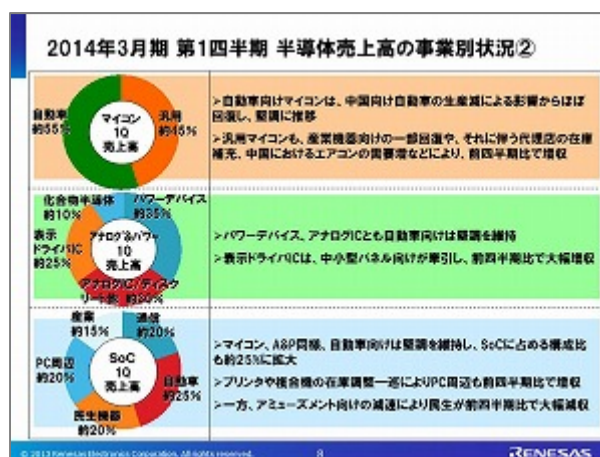
営業損益は、前四半期に引き続き黒字を確保し、これまで実行してきた構造改革の効果が表れ始めているものの、円安の影響や、一時的な費用削減効果による改善が多く、黒字基調の定着にはもう一段の構造改革が不可欠であると考えております。

2014年3月期 第1四半期 半導体売上高の事業別状況①					
(単位:億円)	2013年3月期		2014年3月期		
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	前年同期比	前四半期比
半導体売上高 計	1,682	1,739	1,896	+214 (+12.7%)	+157 (+9.3%)
マイコン	754	776	856	+102 (+13.5%)	+80 (+10.3%)
アナログ & パワー 半導体 (ASP)	547	546	653	+106 (+19.3%)	+107 (+19.6%)
SoC	344	391	368	+25 (+7.3%)	△22 (△6.3%)
その他半導体	37	27	18	△19 (△50.8%)	△8 (△21.6%)

7 ページは、第 1 四半期の事業別半導体売上高です。

第 1 四半期は、自動車向けがけん引し、マイコン、アナログ&パワー半導体については、前四半期比で大幅な増収となりました。

一方、SoC は、自動車向けが好調だったものの、主に民生向けの減速により、前四半期比で減収となりました。



8 ページは、第 1 四半期の事業別半導体売上高について、さらに分野別で詳しく示したものです。

マイコンについては、自動車向けが、昨年から続いていた中国向け自動車の生産減の影響からほぼ回復し、堅調に推移しました。汎用向けについても、産業機器向けの一部回復や、それに伴う代理店の在庫補充、中国におけるエアコンの需要増などにより、前四半期比で増収となりました。

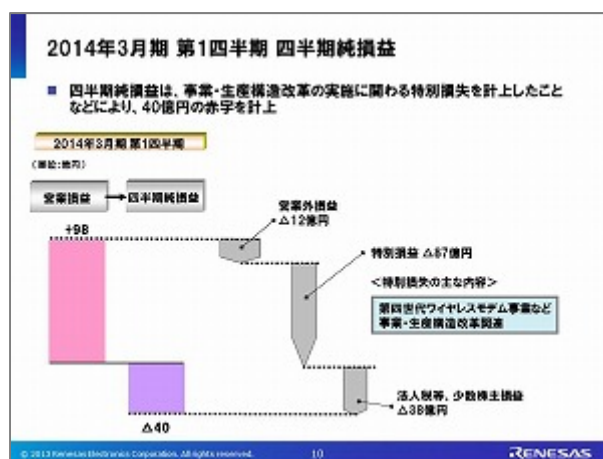
アナログ&パワー半導体については、自動車向けパワーデバイスとアナログICが堅調を維持しました。また、表示ドライバICは、中小型パネル向けが牽引し、前四半期比で大幅な増収となりました。

SoC については、マイコン、アナログ&パワー同様、自動車向けは堅調を維持し、SoC に占める構成比も約 25%に拡大しました。また、プリンタや複合機の在庫調整の一巡により、PC 周辺も前四半期比で増収となりました。一方、アミューズメント向けの減速により、民生が前四半期比で大幅な減収となりました。これらの結果、SoC トータルでは、前四半期比で減収となりました。



9 ページは、第 1 四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

営業利益は、売上増に伴う利益増に加え、為替影響による利益増があったものの、たな卸資産の縮減に伴う生産回収減や、研究開発費、販売費及び一般管理費の増加による利益減があり、前四半期比で 18 億円の増益となる 98 億円となりました。



10 ページは、第 1 四半期の四半期純損益の状況について、営業損益からの内訳を示したものです。

営業損益は前期より改善しましたが、当社が本年 6 月 27 日に公表した「第四世代ワイヤレスモデム事業からの撤退」に伴う海外従業員関係の費用など、合計 89 億円の特別損失を計上したことなどにより、四半期純損益は 40 億円の赤字となりました。

バランスシートの状況		
(単位: 億円)	13/3末	13/6末
総資産	6,691	6,684
うち 現金及び現金同等物	777	958
うち たな卸資産	1,513	1,437
負債合計	5,912	5,881
うち 有利子負債	3,084	2,994
株主資本	758	719
純資産合計	779	803
D/Eレシオ(グロス)	4.59倍	4.41倍
D/Eレシオ(ネット)	3.43倍	3.00倍
自己資本比率	10.0%	10.2%

(注) ①現金及び現金同等物は「現金及び預金」及び「当座預金」の合計額を示す。②たな卸資産は「たな卸資産」の合計額を示す。③有利子負債は「有利子負債」の合計額を示す。④D/Eレシオ(グロス)は「総負債」を「株主資本」で除した比率を示す。⑤D/Eレシオ(ネット)は「有利子負債」を「自己資本」で除した比率を示す。⑥自己資本比率は「自己資本」を「総資産」で除した比率を示す。

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 11 RENESAS

11 ページはバランスシートの状況です。

現金及び現金同等物は、前四半期末と比べ、増加しました。

キャッシュ・フローの状況

- 前年度の第3四半期および第4四半期に発生した早期退職優遇制度に係る一時金支払がなかったことなどにより、フリー・キャッシュ・フローは黒字を回復
- 但し、第2四半期以降、再度早期退職優遇制度の実施に係る一時金支払などが発生する見込みであり、フリー・キャッシュ・フローの安定的な黒字定着にはまだ至らず

	2013年3月期				2014年3月期
(単位：億円)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	△181	46	△475	69	284
投資活動による キャッシュ・フロー	△107	△98	△61	△166	△25
フリー・ キャッシュ・フロー	△287	△52	△536	△97	259

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 12 RENESAS

12 ページは、キャッシュ・フローの状況です。

前年度の第 3 四半期および第 4 四半期に発生した、早期退職優遇制度に係る一時金支払がなかったことなどにより、フリー・キャッシュ・フローは黒字を回復しました。

但し、第 2 四半期以降、再度、早期退職優遇制度の実施に係る一時金支払などが発生する見込みであり、フリー・キャッシュ・フローの安定的な黒字定着にはまだ至っておりません。

II. 2014年3月期 第2四半期 連結業績予想

次に、第2四半期の連結業績予想についてご説明いたします。

連結業績予想に係る開示方法の変更について					
<変更前>					
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
第2四半期(半期)					
通期					
<変更後>					
	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
第2四半期					
<変更の理由>					
当社グループが属する半導体業界では、事業環境が短期間に大きく変化するという特徴があり、信頼性の高い通期の業績を的確に算出することが困難であるため、海外の多くの同業他社が採用している四半期ごとの業績予想に変更					
© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 14 RENESAS					

まず、今回から連結業績予想にかかわる開示方法を変更しておりますので、その内容についてご説明いたします。

当社は従来、第2四半期（累計）および通期の連結業績予想を開示しておりましたが、当社グループが属する半導体業界では事業環境が短期間に大きく変化するという特徴があり、通期の業績予想について信頼性の高い数値を、的確に算出することが困難であることから、当年度より、海外の多くの同業他社が採用している「四半期ごとの連結業績予想」を開示する方法に変更いたします。

今後の業績予想発表につきましては、四半期ごとの業績発表時に、翌四半期までの業績予想を公表いたします。

2014年3月期 第2四半期 連結業績予想						
■ 半導体売上高は、季節性要因もあり、前四半期比5.7%増の2,004億円を見込む ■ 営業損益は、売上増に伴う利益増があるものの、たな卸資産の縮減に伴う生産回収減や期末の費用増などにより、前四半期比56億円減となる42億円の黒字を見込む ■ 四半期純損益は、9月末に実施予定の早期退職優遇制度や事業・生産構造改革の実施に関わる特別損失を計上することなどにより、360億円の赤字となる見込み						
2013年3月期		2014年3月期				
(単位:億円)	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前年同季比	前四半期比	上期
売上高	2,228	1,991	2,089	△139	+98	4,080
半導体売上高	2,053	1,896	2,004	△49	+108	3,900
営業損益	△57	98	42	+99	△56	140
経常損益	△88	85	0	+88	△85	85
四半期純損益	△943	△40	△360	+583	△320	△400
1US\$＝	78円	98円	98円	19円 円安	±0円	98円
1ユーロ＝	98円	127円	128円	31円 円安	2円 円安	128円

15 ページが、第 2 四半期の連結業績予想でございます。

半導体売上高は、季節性要因もあり、前四半期比で、5.7%の増加となる 2,004 億円を見込んでおります。

営業損益は、売上増に伴う利益増があるものの、たな卸資産の縮減に伴う生産回収減や上期末の費用増などにより、前四半期比で 56 億円の減少となる 42 億円の黒字を見込んでおります。

四半期純損益は、本年 9 月末に実施予定の早期退職優遇制度や事業・生産構造改革の実施に関わる特別損失を計上することなどにより、360 億円の赤字となる見込みです。



16 ページは、第 2 四半期の事業別の半導体売上見通しです。

自動車向けは、マイコン、アナログ&パワー半導体、SoC の全ての製品群で堅調に推移する見込みです。

事業別に見ますと、まずマイコンについては、自動車向けに加え、汎用製品も、産業機器向けの回復傾向の継続などにより、前四半期比で 1 桁%前半の増収を見込んでおります。

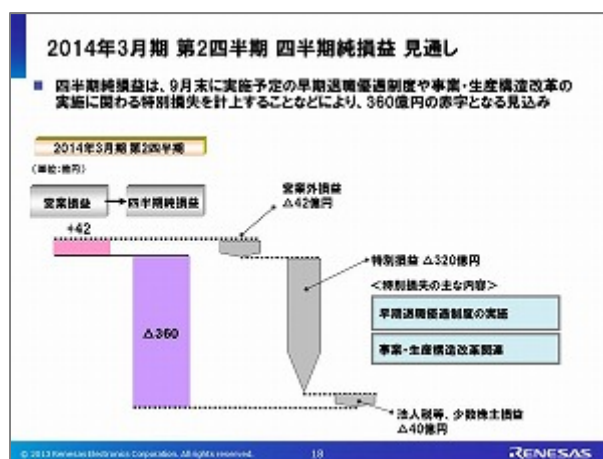
アナログ&パワー半導体につきましては、自動車向けに加え、中小型パネル向け表示ドライバ IC が引き続き拡大し、1 桁%半ばの増収を見込んでおります。

SoC につきましては、自動車向けに加え、第 1 四半期に減速したアミューズメント向けの需要増などにより、10%台半ばの増収を見込んでおります。



17 ページは、第 2 四半期の営業損益について、第 1 四半期からの増減で示したものです。

営業利益は、売上増に伴う利益増が見込まれるものの、たな卸資産のさらなる縮減に伴う生産回収減、製造固定費の増加や、研究開発費、販売費及び一般管理費の増加による利益減により、前四半期比で 56 億円の減益となる 42 億円の黒字を見込んでおります。



最後に、18 ページは、第 2 四半期の四半期期純損益の見通しについて、営業損益からの内訳を示したものです。

四半期純損益は、42 億円の営業利益に対し、9 月末に実施予定の早期退職優遇制度や事業・生産構造改革の実施に関わる特別損失を計上することなどにより、360 億円の赤字となる見込みです。



2014 年 3 月期 第 1 四半期の決算概要のご説明は以上でございます。